

行政視察等報告書

令和5年5月17日

米子市議会議長様

(会派の場合)

会派名 公明党議員団

代表者氏名 今城 雅子

提出者氏名 矢田貝香織

(議員の場合)

議員名



下記のとおり報告します。

記

項目	<input type="checkbox"/> 現地調査 <input checked="" type="checkbox"/> 行政視察 <input type="checkbox"/> 要請・陳情活動 <input type="checkbox"/> 研修会への参加 <input type="checkbox"/> 会議への参加
参加者	今城 雅子、津田 幸一 矢田貝香織、徳田 博文
期日	令和5年5月8日から 令和5年5月10日まで
〔概要〕(年月日・場所・内容)	
① 令和5年5月8日 (佐賀市下水浄化センター) バイオマス産業都市構想 下水道施設課 山口賢一参事ほか	
② 令和5年5月9日 (障がい者支援センター) 地域生活支援拠点整備 障害福祉課 甲斐秀樹参事ほか	
③ 令和5年5月10日 (延岡市役所) ニュータウン脱炭素再生戦略 脱炭素政策室 渡部貞陽室長ほか	
〔所感〕 別紙記載	
経費	旅費@ 円× 4人 = 329,400円 その他@ 円× 人 = 円 合計 329,400円

所感① 佐賀県佐賀市 令和5年5月8日(月)

「バイオマス産業都市構想「下水浄化センター」の取り組みについて」

説明者：下水プロジェクト推進部

江口和宏 下水道施設課長

山口賢一 下水道施設課参事兼副課長兼整備係長
政策推進部

深川誉啓 バイオマス産業推進課副課長兼政策推進係長

○下水浄化センター（令和3年度）実績

流入下水量（日平均）	57,809 m ³
消化ガス発生量（日平均）	6,034 m ³
対象汚泥投入量（日平均）	250 m ³
消化ガス発電量（年間）	3,017,380 kWh
電力自給率	約40%
肥料出荷量（年間）	1,090 t

○下水浄化センターに集まった下水を浄化し、水と汚泥に分解処理。水は有明海へ放水、汚泥は肥料として自然界に循環している。

施設からでる水のデータ公表に対する住民からの信頼と有明海での養殖海苔に必要な成分として歓迎させていることや、肥料の無料提供は、そこでの耕作者間で情報交換ができる大切な場所になっていた。

暮らしの中にある浄化施設として位置づけられていることを実感した。

○排水に含まれる成分は、排出規制があるものの、海苔養殖の時期に合わせて排水量の調整を行うことで、漁業者との関係も良く、現実的な経済産業支援となっていた。

○市全体の下水処理は、地域の特徴を活かした取り組みをされていた。

3年度末の汚水処理人口普及率は93.7%。

○下水道浄化センターは、工事着工が昭和49年、供用開始が昭和53年の施設。今後の施設改修は検討課題(今年度に第2期ストックマネジメント計画策定)であるが、生活者からは受け入れがたいとされる施設を、地域の宝とするために何年もかけて検討し取り組まれたバイオマス産業都市構想は大変参考になった。

首長の思いと、特別委員会を立ち上げ議論してきた議会の姿勢に感じるところがあった。豊かな自然環境を守る事と、産業の成長は同時に目指すことではあるが、企業や日常生活からでる下水・廃棄物等の処理について、総合的かつ長期的にとらえ、取り組むことの大切さを痛感した。

所感② 大分県大分市 令和5年5月9日(火)

「大分市地域生活拠点の整備について」

説明者：福祉保健部

甲斐秀樹 障害福祉課参事

河野 剛 障害福祉課参事補

赤木明美 障害福祉課障がい者虐待防止センター相談員

- 障がい者の相談対応を、官民連携で進めている現状に感銘を受けた。
障がいの種別の違いに対応できるよう委託した3事業所と、虐待防止センターが同じ施設(障がい者相談支援センター)内に設置され、担当課(障害福祉課)との連携が図られていた。
- 緊急時の相談ダイヤルを3事業所で運営。平日の対応時間の21時までの延長と、緊急時の宿泊場所の確保等、支援体制を整えられていた。
障がいがある当事者や家族の視点から、更なるサービス拡充へ向け、課題に向き合いながら検討を重ねられている姿勢を学ばせていただいた。
- 24時間の相談対応については、自立支援協議会でも意見があったそうだが、現在は、障がい者相談支援センターの開所日を365日・平日は21時までとしている。利用実績をみながら今後の検討事項としているとのこと。協力事業所の拡大も目指したいとのことであった。
- 緊急時の夜間及び深夜の支援は、市独自の運用基準により支援費が支給されることになっている。
市の障がい者相談支援センターに準備している宿泊スペースやホテル等の宿泊施設の利用実績は無いとのことだが、日ごろの通所施設の多目的室や休憩室などで緊急時の受入れ実績があるとのこと。
上記の事からも、対象者は、障害福祉サービスの利用者に限るか、緊急時の障害福祉に係る全ての緊急相談者に対応するのか、検討中とのこと。
- 虐待防止センターの設置は、助けを求めることができず自死に至った親子を出してしまった過去の事案が教訓としてあるとの説明があった。
説明後、障がい者相談支援センター内の3つの委託先と虐待防止センターを回ったが、教訓を忘れることなく、相談支援業務にあたる(官民の)職員モチベーション・使命感は、高いと受け止めた。
- 地域の実状にあった地域ケアシステムと地域包括支援センターが行う相談支援業務と、障がいがある方々や家族への相談支援の関係については、議論されていないようで、米子市における総合相談支援センター“えしこに”と、地域福祉計画について意見交換することができた。
米子市における障がい者支援の更なる拡充へ向けた、具体的な提案につなげたい。

所感③ 宮崎県延岡市 令和5年5月10日(水)

「ニュータウン脱炭素再生戦略について」

説明者：市民環境部 脱炭素政策室

渡部 貞陽 室長

吉田 昌史 室長補佐

- 延岡市が国の脱炭素先行地域（第2回目）として選定されるまでの準備検討期間の取り組みは、住民の意識醸成の難しさと重要性を認識したもので、感銘を受けた。また、市民環境部内に「脱炭素政策室」をおき、部局横断的に取り組まれていることも共感した。
- 2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、脱炭素社会の実現のため「延岡市脱炭素推進協議会」の会長に市長が就任されていることや、幅広い分野の事業者や団体が協議会に参画されていることから、全市的な機運醸成への強い思いを感じた。
市役所内各課の脱炭素推進員との連携で、具体的活動を進める庁内体制も構築されていた。
- 令和5年3月に延岡脱炭素エネルギーマネジメント㈱を設立。太陽光設置・電力契約の推進は、スタートしたばかりであった。
再エネ・省エネの最大限の導入支援策はしっかりまとめられていると受け止めた。
- 脱炭素先行地域を一ヶ岡エリアと設定したのは、①高度成長期の大規模団地で、地域内で生活がある程度完結できるまちで、取り組み範囲が明確であること。②高齢化率が37%と市内平均より高く、他地域への先駆けとなり得ること。③高度成長期のニュータウンという、全国同様事例が多く、課題解決のプロセス展開できる可能性が高い。等の理由であった。
地域以外の全市的な取り組みも政策室で取り組まれていた。
- 市民の脱炭素への意識・行動変容への取り組みとして、若年層をターゲットとしたものとして、『脱炭素アプリ』の構築と『デジタル地域通貨』との連携に取り組むとのこと。また、高齢者が取り組みやすいように『健康マイレージポイント』等をハガキにシールを貼って応募でき、年2回のお楽しみという工夫があり、感心した。
- 令和4年11月には、デジタル田園都市国家構想推進交付金「脱マイカー社会推進のためのオンデマンド交通導入事業」で、乗合タクシー3路線のEV化、EV循環バス導入。「公共交通網の再構築」と「オンデマンド型乗合タクシー」を、北浦町で事業開始するなど、全市全世代に向けた各施策を、『脱炭素、再エネ省エネ』と繋げていくという熱意が伝わってきた。

行政視察行程（会派：公明党議員団 4名）

月 日	行 程	宿 泊 先
5/8 (月)	<p>7:22 7:26 9:39 10:11 12:13 12:50 13:12</p> <p>米子駅 = (伯耆大山駅) == 岡山駅 == 新鳥栖駅 == 佐賀駅 == 佐賀市下水浄化センター <small>JR 新幹線さくら549号・鹿児島中央行 JR 長崎本線・肥前浜行 タクシー</small></p> <p>佐賀市行政視察 午後2時00分から午後4時00分まで 【議事事務局】 ☎：0952-40-7310 【調査項目】 バイオマス産業都市構想～「下水浄化センターの取組」について</p> <p>17:10 17:36 17:47 18:26</p> <p>佐賀市下水浄化センター == 佐賀駅 == 鳥栖駅 == 博多駅 <small>タクシー JR 長崎本線・鳥栖行 JR 区間快速・門司港行</small></p>	<p>マスガーデン ホテル博多 ☎：092-434-1311</p>
5/9 (火)	<p>9:01 11:03</p> <p>博多駅 == 大分駅 <small>特急ソニック9号・大分行</small></p> <p>大分市行政視察 午後2時30分から午後4時00分まで 【議事事務局】 ☎：097-537-5644 【調査項目】 大分市地域生活支援拠点の整備について</p> <p>17:06 19:09</p> <p>大分駅 == 延岡駅 <small>JR 特急にちりん13号・宮崎空港行</small></p>	<p>ホテルルーティン 延岡駅前 ☎：0982-23-1300</p>
5/10 (水)	<p>延岡市行政視察 午前9時30分から午前11時00分まで 【議事事務局】 ☎：0982-22-7029 【調査項目】 ニュータウン脱炭素再生戦略について</p>	

	<p> 11:41 延岡駅 13:41 大分駅 13:44 大分駅 15:03 小倉駅 16:02 小倉駅 17:32 岡山駅 18:05 岡山駅 20:25 (伯耆大山駅) 20:29 米子駅 </p> <p> JR 特急にちりん8号・大分行 JR 特急ソニック34号・博多行 新幹線さくら560号・新大阪行 特急やくも28号・出雲市行 </p>	
--	---	--

旅費計算表

佐賀県佐賀市、大分県大分市、宮崎県延岡市
 公明党議員団会派現地視察

令和5年5月8日 ~ 令和5年5月10日 (2泊3日)

月日	区間	鉄道路線名	区キ	間数	目的地までのキロ数	運賃	グリーン	急行料金		宿泊		料	
								別	新幹線	日	当宿		
5/8 (月)	米子駅 ~ 岡山駅	JR	159.1		9,930			特 2,530	随 1,100円	議 1,500円	甲 14,800円	乙 13,300円	
	~ 新鳥栖駅	JR	470.6										
	~ 佐賀駅	JR	22.1										
	佐賀駅 ~ 博多駅	JR	53.6		1,130								
5/9 (火)	博多駅 ~ 大分駅	JR	198.5		6,160								
	大分駅 ~ 延岡駅	JR	123.3										
5/10 (水)	延岡駅 ~ 小倉駅	JR	256.2		11,330								
	~ 岡山駅	JR	374.8										
	~ 米子駅	JR	159.1										
計					77,610	28,550	0	0	13,550	7,410	4,500	0	23,600

議員 随出 席 議 員 今城議員、矢田貝議員、津田議員、徳田議員

議員旅費 77,610 × 4名 = 310,440 円
 タクシー代 2,970 × 1台 = 2,970 円 (佐賀駅⇒佐賀市下水浄化センター) 片道
 タクシー代 2,100 円 (大分駅⇒大分西公民館) 往復
 お土産代 2,430 × 3箇所 = 7,290 円
 取扱料 1,650 × 4名 = 6,600 円
 合計 329,400 円